



ゼロスの戦争ゲーム/
The Expendables: The War Games of Zelos (1975) / リチャード・エイヴァリー (石田善彦訳) / 東京創元社 (文庫・10/24刊・¥300)

〈コンラッド消耗部隊^{エクスペンダブルス}〉の第三巻目にあたる。フォーマルハウト第五惑星〈ゼロス〉、絶好の居住惑星と思えたその世界には、地球人と酷似した人間たちが住んでいた。彼らは、死に至る格闘技、戦争ゲームにより、政治的決着をつけていた——エクスペンダブルスのメンバーたちは、否応なく、そのゲームに巻き込まれていく……。

さて、このシリーズの特徴は、主人公たちや設定の非情さにあったはずだ。枯渴する地球資源、帰還を保証されない罪人たちで組織された〈消耗部隊〉——しかも、脅威に満ちた異星が舞台である。けれども、一巻目の終わり、主人公たちは早くも英雄と化し、地球の逼迫した状況も緩和された。それだけで、緊張感が薄れるには、充分といえる。

本書単独で見た場合、そのアイデアは決して目新しいものではない。たしかに、お馴染みの登場人物が、お馴染みの活躍を見せてくれる。そういう意味での楽しみ方はできるだろう。——だが、総合的に判断すると、このシリーズ、一巻目がすべてではなかったかと、疑問を感じてしまう。次作の起死回生を期待したい。(俊)